

お月見会

9月24日

中秋の名月の前日にお月見会をしました。飾りやお供えものを見て「あれ、すすきじゃろ」「栗とかさつまいももあるね」など気づきを伝え合うこどもたち。

「じゃあなんすすきを飾るのかな？」と問いかけると「たんぼのお米みたいだから、じゃない？」との答えが返って来ました。また、黄色い画用紙を細長く切っていろいろな形の三日月を作っていたこどもの姿↓を見てこちらが準備した月の満ち欠けの視覚教材を見せると「昨日の月はこんなだったよ」と自分が見た月の形を教えてくれた子もいました。紙芝居を見てお月見の由来を知り、秋の実りに感謝しながら季節の移り変わりや自然の不思議さ、美しさを感じたひと時となりました。



会の後、お供え物の果物や野菜、お月見団子などを保育室に飾りました。栗のいがを手で持って「いたくないよ」と言ったり、お団子を眺めて「おいしそう」「食べたいなあ」と話したりしながら興味津々で楽しい時間を過ごしていたこどもたちでした。

ことばの相談室で遊んだよ 9月30日



湯田幼稚園には「ことばの相談室」があります。普段は就学前のお子さんと保護者の方に個別で来室していただいておりますが、学期に一回、園児に向けての「相談室で遊ぼう」を行っています。

今回は一つのことばから連想されることばをどんどんつないでいく、就学前のこの時期の年長児にぴったりの内容でした。お題の『きゅうり』の絵をホワイトボードに先生が描くと、まずは→『食べれる』(身近な野菜で給食でもよく出るからかな)が出て、次の友だちは→『うまい』(きゅうりが好きのかな)そして→『チョコレート』(みんな好きそう)そこから→『チョコバナナ』(お祭りで見ただのかな)→『刺す』(実際に串に刺さったチョコバナナ食べたのかな)→『針』(串の先端の尖った部分の見た目が針につながったのかな。まあ家の人が針仕事をしている姿を見たことがあるのかな)→『つまようじ』(おうちで誰か使っているのかな)→『えんぴつ』(太さは違うけど形が似てるからかな)→『紙に書く』(経験とつながっているな)→『クレヨン』(身近にあって日頃よく使う物だから出やすかったのかも)と、一人ずつ自分の考えた連想されることばを言い、見事につながりました。

知っているだけでなくそのことばが持つ意味や特徴がわかり、使えるようになっている姿を見て、改めて、こどものことばを育てるうえで、生活経験や絵本の読み聞かせなどがとても有効だと実感したひとコマでした。

そのあとはカードを見て実際に同じ動きをまねっこする遊びをしました。自分一人だと何とか絵の通りに動きがとれるものの、続いて2人組になると、相手と気持ちやタイミングを合わせて動きをまねるのが難しいようで苦戦するペアも見られました。まずは見本を見ながら、自分の体のどの部分をどのように動かすのか、動きを分解しながら自分の体で表現するなどしていき、イメージ通りに動ける体づくりに取り組んでいきたいと思います場面でした。

